

2026年度 事業計画書

(自 2026年6月1日 ~ 至 2027年5月31日)

公益社団法人

日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟

公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟(JBLSF)は、日本国内のボブスレー・リュージュ・スケルトンの各競技を統括し、代表する団体として、定款に掲げる目的を達成するため、以下の事業を計画実施する。本年度は、2030 オリンピックに向けて、4年サイクルが開始する節目のシーズンとなる。運営体制の再構築を図り、加盟団体と連携を取りつつ、役員・スタッフが各事業に取り組んでいく。

1. 競技普及振興活動

(1) 道府県連盟開催事業

事業名称	開催地	会場	開催予定時期	目標(人)
ローラーリュージュ：ローラー スケルトン体験会	長野	南長野運動公園	2026/10	200
ジュニアブッシュ・ライド体験会		スパイラル	2026/8	30
キッズバイクパークフェスタ 2026 in 太陽の村：芝ソリ滑り体験会	宮城	太陽の村	2026/10	50
ちびっこそり大会：デモンストレーションと正しいソリの乗り方 講習会		みやぎ蔵王えぼし リゾートスキー場	2027/1	100
満喫！蔵王の冬（ソリすべり体験 プログラム）		宮城県蔵王自然の 家	2027/2	100
ケン王ーソリ大会（同時開催：宮 城県ボブスレー・リュージュ・ス ケルトン連盟ジュニア杯）		泉ヶ岳スキー場	2027/3	50
リュージュ体験教室	北海道	藤野競技場	2027/1-2	200

選手発掘テスト	大阪	加古川運動公園陸上競技場	2026/7/5	10
夏季合宿		陸上自衛隊大津駐屯地内体育館(予定)	2026/7/19-20	5
第31回西日本プッシュ選手権大会		陸上自衛隊大津駐屯地内体育館(予定)	2026/7/20	5
競技規則講習会		サンライフ明石(予定)	2026/11-12	5
第3回藤原杯 第17回大阪府民スポーツ大会 スケルトン選手権大会		札幌藤野リュージュ競技場	2027/1/24 (予定)	12
プッシュ練習会			随時(要望があれば実施)	

(2) 選手発掘事業

本事業では、日本版FTEMに基づき、将来的に国際競技会で活躍し得る競技者の発掘・育成を行う。

発掘・育成グループを中心に、体格、フィジカル能力、競技適性等を総合的に評価し、日本版FTEMにおけるT1段階に該当し得る選手の発掘を目指す。

発掘された選手については、T1候補者として合宿、測定、競技体験等を通じて適性を検証し、T1としての選定・継続支援・次段階への移行判断につなげる。

■ボブスレー/リュージュ/スケルトン(合同)

事業名称	開催地	開催時期	目標(人)
選手発掘テスト	愛媛	2026/7	30
選手発掘テスト	埼玉	2026/8	20

■リュージュ

事業名称	開催地	開催時期	目標(人)
海外滑走合宿	韓国	2027/2	3
巡回指導	長野・愛媛	2026/6	1
巡回指導	北海道	2026/6	1

■スケルトン

事業名称	開催地	開催時期	目標(人)
育成合宿 1	長野	2026/8	4
育成合宿 2	長野	2026/9	4
海外育成合宿 1	韓国	2026/12	4
海外育成合宿 2	欧州	2027/2	4

巡回指導 1	宮城	2026/6	2
巡回指導 2	北海道	2026/7	1
巡回指導 3	宮城	2026/7	2

(3) 国際大会・全国大会事業

事業名称	開催地	会場	開催時期	参加(人)
2026 全日本プッシュスケルトン選手権大会	長野	スパイラル	2026/8/8	30
2026 全日本プッシュボブスレー選手権大会				20

(4) 審判資格者育成事業

審判員資格の取得は、大会運営に必要不可欠な競技役員の確保のみならず、選手やコーチの活動における基礎知識の取得にもつながることから、競技委員会や加盟団体と連携して事業を推進していく。

【国内審判員資格】

本連盟公認審判資格取得に関しては、主として全日本プッシュ選手権競技会運営に関するものとし、氷上競技会運営に関する審判員資格とは別扱いとする。全日本プッシュ選手権競技運営に関わる競技役員は大会運営委員会にて指名され、本選手権における運営に関する事前研修を受けることを必須とする。

氷上競技会運営に関する公認審判員取得・更新については、本年度設置するワーキンググループにて検討することとし、審判員資格の資質担保を維持していく。

【国際審判員資格】

国際ボブスレー・スケルトン連盟(IBSF)並びに国際リュージュ連盟(FIL)公認審判員資格取得者の資格更新に関しては、それぞれの国際連盟規程に従って行うものとする。現地での更新講習に係る費用については個人負担とするが事前に日本連盟に申し出ることとする。

なお、国内・国際審判員資格取得者並びに選手・コーチで国際競技会ルールについて研修を希望する者がある場合について指導者養成担当と連携して研修を実施することとする。本研修会については、必要に応じてオンライン開催にて事業を行う。この場合の参加料は無料とする。

また、各国際連盟主催の当該シーズン国際競技会運営に関するワークショップへの参加希望があれば日本連盟に申し出て各国際連盟の指示内容に従って参加可能とする。

事業名称	開催地	会場	開催時期	(人数ほか)
全日本プッシュ選手権競技会運営	長野市	長野スパイラル	2026/8	40
公認審判員資格に関するWG開催	オンライン	未定	2026/7・8・9月頃	新規
国際競技会運営ルール研修会	地方連盟	未定	2026/11月頃	未定
FIL 国際競技会運営WS	ドイツ	オンライン	2026/10・11	数名
IBSF 国際競技会運営WS	未定	未定	未定	未定

(5)長野スパイラル利用拡大推進事業

長野スパイラルの冬季製氷休止に伴い活動休止。

(6)広報・資金調達活動事業

連盟主催の全国大会である全日本プッシュスケルトン選手権および全日本プッシュボブスレー選手権の価値向上に取り組む。大会運営においては、来場者が安全かつ快適に観戦できる環境を整備するため、簡易トイレの導入を進める予定である。広報活動については、開催地である長野県内のテレビ局・新聞社等への事前取材依頼を継続するとともに、連盟として公式プレスリリースの配信を積極的に行い、露出機会の拡大を目指す。また、自社メディア(Instagram・X)を活用し、外部クリエイティブエージェンシーと連携した大会ハイライト映像等の制作・配信を行うことで、競技の魅力発信を強化する計画である。

そり競技体験イベントについては、スパイラル(長野県)において開催を予定している。来場者に対し、ローラーそり体験やプッシュボブスレー、プッシュスケルトンなどのコンテンツを提供し、競技理解の促進と普及活動を推進する。また、小林選手をはじめとするトップアスリートを招致し、オリンピック出場経験等を共有する交流企画を実施することで、来場者の興味関心の向上を図る。

選手のシーズン活動においては、各種ウェアへのパートナーロゴ掲出を継続し、国内外の大会や国際連盟配信映像等を通じてパートナー企業の露出機会を創出する。また、PR TIMES とのパートナーシップを活用し、継続的なプレスリリース配信を行うことで、連盟の情報発信体制を強化する。

さらに、現行の連盟公式 HP については、情報構造が分かりにくいとの指摘を踏まえ、全面的なリニューアルを検討し、競技者・ファン・メディアが必要な情報にアクセスしやすい環境を整備する。

2. 競技者強化と指導者養成活動

(1)強化事業

-1. ボブスレー

2030 年以降のオリンピック競技大会を見据え、国際競技会で求められる身体能力、プッシュ能力、操縦技術、チーム運用能力等を備えた選手の発掘・育成・強化に取り組むとともに、継続的な強化活動を実施できる組織基盤の整備を図る。

特に、男女ともにパイロット育成を重点課題とし、IBSF および KBSF 等との連携により、海外トレーニング環境や国際的な知見を活用しながら、競技力向上および国内強化体制の再構築に取り組む。

事業名称	開催地	目的	開催時期	選手(人)
国内合宿	長野	・チーム方針確認 MTG 実施 ・プッシュトレーニング実施	2026/8	3
海外合宿	未定	・滑走トレーニングの実施 ・海外強豪国との合同トレーニング実施	2026/11	3

-2. リュージュ

2030年オリンピックで活躍できる身体能力を有した選手の強化事業を実施する。氷上スタートトレーニング、コンバインテストを実施する。

事業名称	開催地	目的	開催時期	選手(人)
海外強化合宿	韓国	・氷上スタートトレーニング ・フィジカルトレーニング	2026/9	1

-3. スケルトン

国際競技会で求められる競技力要素を整理した WITTW モデルに基づき、計画的な育成・強化事業を実施する。

スタート局面に必要なスプリント能力およびプッシュ技術、氷上滑走技術、用具への適応、レース分析に基づく課題改善、コンディショニング能力等を総合的に強化する。

あわせて、各選手の課題を Development Point(DP)および Individual Development Plan (IDP)等に整理し、合宿・測定・滑走トレーニング・国際競技会への派遣を通じて、継続的な検証と改善を行う。

事業名称	開催地	目的	開催時期	選手(人)
国内合宿1	東京	・HPSCを活用した基礎強化 ・S&C計画策定、実践	2026/6	2
国内合宿2	東京	・夏季トレーニングの進捗確認	2026/7	2
国内合宿3	長野	・プッシュ技術課題克服 ・用具等のシーズインに向けた準備	2026/8	2
国内合宿3	長野	・プッシュ技術実践と安定性向上 ・海外遠征に向けた準備	2026/9	2
海外合宿	韓国	・氷上でのプッシュでの技術実践	2026/10	2

(2)海外遠征・国際レース参戦事業

-1. ボブスレー

ボブスレーについては、2030年以降のオリンピック競技大会への出場を見据え、パイロット育成、ブレーカー発掘、国際レース経験の獲得を段階的に進める。

本年度は、強化体制の再構築期であることを踏まえ、IBSF および KBSF 等との連携を活用し、海外トレーニング環境の確保、公式練習への参加、国際下部大会への参戦可能性の検証を行う。

国際レースへの派遣については、選手の安全性、IBSF ライセンス、保険、指導体制、使用そり・用具、現地サポート体制、連盟としてのリスク管理を確認したうえで実施する。

なお、現段階では、IBSF North American Cup、IBSF Europe Cup 等の国際下部大会を主な参戦候補とし、選手の到達度や連携先との調整状況に応じて、派遣内容を弾力的に決定する。

事業名称	開催地	目的	開催時期	選手(人)
海外遠征1	韓国または欧州	<ul style="list-style-type: none"> ・KBSF 等との連携による滑走トレーニングの実施 ・パイロット育成に向けた基礎滑走経験の確保 ・そり、用具、現地サポート体制の確認 ・国際レース参戦可否の判断材料の収集 	2027/1	4

-2. リュージュ

アメリカチームとのパートナーシップを活用したシーズン計画の為に、アメリカチームとのミーティングを実施する。

2030 年に向けた中期強化方針のもと、滑走量の確保と国際大会での実戦経験を計画的に積み重ね、心技体の総合的な競技力向上を図る。

事業名称	開催地	目的	開催時期	選手(人)
コーチ派遣	レイクプラシッド	<ul style="list-style-type: none"> ・USLA との年間計画会議 ・USLA との遠征計画会議 ・マテリアル変更打合せ ・スタート技術指導等の指導内容打合せ 	2026/7	1
海外遠征 1	北米・欧州 ・アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・氷上滑走トレーニング ・滑走フォームとスタートタイム向上 ・国際大会参加 	2026/10 -2026/12	
海外遠征 2	欧州	<ul style="list-style-type: none"> ・氷上滑走トレーニング ・滑走フォームとスタートタイム向上 ・国際大会参加 	2027/1 -2027/2	
Jr 海外遠征 1	欧州	<ul style="list-style-type: none"> ・氷上滑走トレーニング ・滑走フォームとスタートタイム向上 ・国際大会参加 	2026/11 -2026/12	3
Jr 海外遠征 2	欧州	<ul style="list-style-type: none"> ・氷上滑走トレーニング ・滑走フォームとスタートタイム向上 ・国際大会参加 	2027/1	3
海外コーチ招聘	欧州	<ul style="list-style-type: none"> ・メダル獲得経験のあるコーチング機会創出 	2026/11- 2027/2	1

-3. スケルトン

事業名称	開催地	目的	開催時期	選手(人)
海外遠征 1	欧州・北米	<ul style="list-style-type: none"> ・中国や欧州での滑走経験確保 ・前半戦国際競技会への派遣 	2026/11-12	2
海外遠征 2	欧州・北米	<ul style="list-style-type: none"> ・後半戦国際競技会への派遣 ・成果 KPI 達成 	2027/1-2	2
海外コーチ招聘	欧州・北米	<ul style="list-style-type: none"> ・メダル獲得経験のあるコーチング機会創出 	2026/10- 2027/3	1

(3) 指導者養成事業

日本スポーツ協会(JSPO)のコーチ 3 を有した指導者の育成と、その指導者が指導現場で適切に活動できるよう、以下の事業を実施する。なお、本年度については JSPO コーチ 3「そり競技」専門科目講習会を実施しない(次回は 2027 年度に実施予定)。

活動名称	目的	予定するスケジュール
JSPO コーチ 3 における専門科目テキスト内容の検討	JSPO コーチ 3 専門科目のカリキュラム改定に伴い、想定担当講師と実施する項目の内容について、検討を行う	2026/6～2026/12 想定講師および内容検討 2027/1～2027/5 テキストの仮作成
NF 派遣遠征等における指導者の JSPO 資格義務付けの検討	NF が派遣する海外遠征や国内合宿等における指導者について、JSPO 資格保持の有無の記載に関する検討を行う	2026/6～2026/12 規定確認および実施状況の把握 2027/1～2027/5 規定変更案の検討
PF 主催大会における JSPO 資格義務付けの検討	PF が主催する各大会や活動における JSPO 資格の義務付けについて検討を行う	2026/6～2027/2 実施状況の把握 2027/2～2027/5 規定変更案の検討

(4) 長野スパイラルそり競技調査研究事業

長野スパイラルの冬季製氷休止に伴い、スパイラル機材を活用した同事業は休止する。

(5) 医科学サポート推進事業

JOC Vision2064 で掲げる「高い競技力と人間力を活かし、充実した人生を歩む、憧れの存在となるアスリートを育てる」の体現を目指し、ボブスレー、リュージュ、スケルトンの 3 競技における競技力向上と安全・健康管理の両立を図るため、医科学サポート推進事業を実施する。

本年度は、2030 年オリンピックに向けた新たな 4 年サイクルの初年度であり、強化方針、遠征計画、発掘育成、代表選考、国際大会派遣と連動した医科学サポート体制の再構築を進める。医科学部は、強化活動の後方支援にとどまらず、選手のコンディション管理、傷害予防、リコンディショニング、アンチ・ドーピング教育、相談窓口、安全・セーフガーディング、遠征・合宿時のリスクモニタリングを担い、選手が安全かつ安定した環境で競技力を発揮できる体制を整える。

これらの活動は、3 競技の強化方針および年間計画に基づき、HPD、HPAD、各競技担当、事務局、国際情報担当、マテリアル担当等と連携して実施するものであり、医科学部単独で完結するものではない。医科学部は、各事業における支援内容、対応記録、教育実施記録、リスク・事故報告等を適切に残し、必要に応じて HP 本部会、事理事会等へ報告する。

① 年間活動

活動名称	目的	対象者	主な実施内容・成果物
医科学サポート 計画の整備	3競技の強化計画・遠征計画と連動し、 年間の医科学支援方針を整理する	強化指定選手、 派遣対象選手、 強化スタッフ	年間医科学サポート計画、帯 同計画、支援体制表
コンディション管 理・リコンディショ ニング支援	選手の心身の状態を把握し、傷害予 防、競技復帰、パフォーマンス発揮を支 援する	強化指定選手、 派遣対象選手	コンディション記録、対応カル テ、リコンディショニング計画、 月次共有
選手相談窓口の 運用	選手が心身の不調、競技環境、人間関 係、安全上の不安等を相談できる体制 を整える	加盟選手、強化 指定選手、派遣 対象選手	相談対応ログ、守秘範囲での 集計レポート、必要時の紹介・ エスカレーション記録
アンチ・ドーピン グ教育・JADA 対 応	アンチ・ドーピングに関する理解を高 め、違反防止と適切な検査対応につな げる	加盟選手、派遣 対象選手、スタ ッフ	教育計画、受講記録、JADA 報告、検査対応ログ
スポーツ・インテ グリティ教育	アンチ・ドーピング、セーフガーディ ング、コンプライアンス等を含め、代表選 手・スタッフとして必要な行動規範の理 解を促進する	加盟選手、スタ ッフ	教育資料、実施記録、受講記 録
遠征・合宿時リス クモニタリング	遠征・合宿時の安全、健康、人間関係、 競技環境上のリスクを早期に把握し、 重大化を防ぐ	派遣対象選手、 帯同スタッフ	モニター日報、日次リスクサマ リー、橙・赤事案のエスカレー ション記録
事故・傷害時の 初動対応と報告	傷害、疾患、事故、重大リスク発生時の 初動対応と再発防止を組織的に行う	加盟選手、強化 指定選手、派遣 対象選手	事故報告書、傷害対応記録、 再発防止策、共有先記録
女性アスリートサ ポート	女性アスリート特有のコンディション、健 康、相談事項に対応し、安心して競技 に取り組める環境を整える	女性選手、必要 に応じてスタッ フ	相談記録、支援記録、必要時 の医療機関連携
サプリメントポリ シーの運用	アンチ・ドーピング違反防止の観点か ら、サプリメント利用に関する確認と管 理を行う	派遣対象選手	サプリメント確認記録、利用管 理記録
大会現地医療対 応	国内大会における参加者の安全・健康 管理を行う	大会参加選手、 スタッフ	医師・トレーナー配置、当日対 応記録、事故・傷害時報告

② 主な事業

事業名称	開催地	事業目標	開催時期	対象・人数
3 競技合 同会議・医	東京都また はオンライ	3 競技の強化方針、遠征計画、目標設定の共有と あわせて、アンチ・ドーピング、安全・セーフガーデ	2026/9/6	選手・スタッ フ

事業名称	開催地	事業目標	開催時期	対象・人数
科学／インテグリティ共有	併用	インテグリティ、医科学サポート体制、相談窓口の運用を周知する		
アンチ・ドーピング教育・受講管理	オンライン中心	加盟選手および派遣対象選手、スタッフに対し、アンチ・ドーピング教育を実施し、受講記録およびJADA 報告に必要な証跡を整備する	通年	選手・スタッフ
アスリートセミナー／個別面談	オンライン中心	代表候補選手・派遣対象選手に対し、医科学サポート、情報リテラシー、コンプライアンス、インテグリティ、相談窓口に関する理解を促進し、必要に応じて個別面談を実施する	2026年8月～10月頃	派遣対象候補選手・スタッフ
遠征・合宿帯同サポート	国内・海外遠征先	遠征・合宿におけるコンディション管理、傷害予防、リコンディショニング、相談対応、リスクモニタリングを行う	各競技の遠征・合宿計画に準ずる	派遣対象選手・帯同スタッフ
全日本ブッシュ選手権大会 現地医療対応	長野等	大会参加者の安全・健康管理を目的として、医師または医科学スタッフを配置し、傷害・事故発生時の初動対応と記録を行う	2026/8/8	大会参加選手・スタッフ

以上